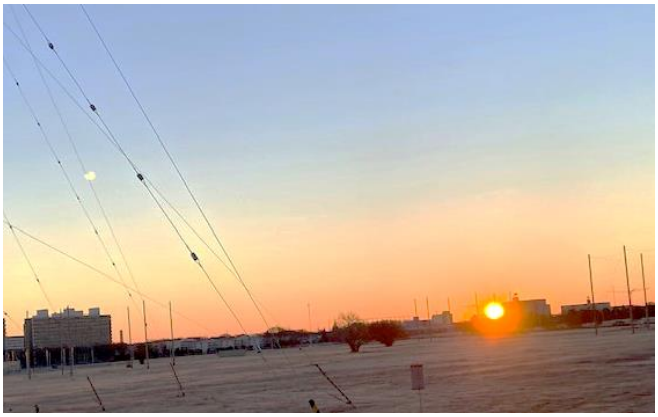
所沢市立美原中学校

学校だより No10

令和４年度　第10号
１月１０日（火）

学　校　教　育　目　標
・進んで学ぶ生徒（知）
・心豊かな生徒（徳）
・たくましい生徒（体）

真の感謝を知り、座右の銘を志す！



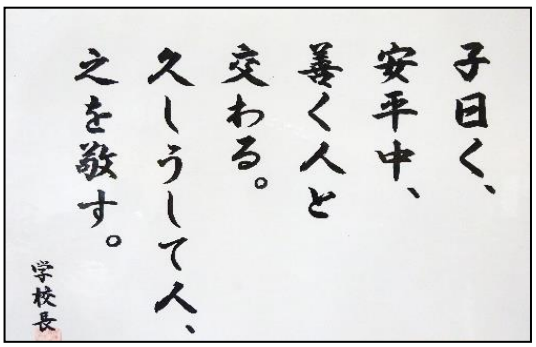
　あけましておめでとうございます。今年は、制限のない年末年始ということで、多くの人が通常の過ごし方に近い形でスタートしたと聞いています。現に元旦の初日の出には、昨年より多くの人が基地のフェンス沿いから初日の出を見ていました。普段の生活に戻ってほしいと願うばかりです。

　さて、年末から年始にかけては、日頃連絡を取らない人とお会いしたり、お会いできなくてもこの機会に年賀状・SNS を使って、近況を報告しあったりします。私は、この年になるまで本当に多くの人にお世話になりました。しかし、年賀状は、お出ししても、今は、お会いしてお礼を述べたくても、なかなか会えない方や、すでに亡くなった方などもおられます。今となっては、直接、感謝を述べることは、かないません。今の自分があるのは、多くの方々のお世話になったお陰と考えると心苦しく残念です。そんな時、年賀状や SNS 等だけにとどまらず、どのようにして、この恩に報いるかをこの新年でお話ししようと思います。

　今でもあるのかもしれませんが、古くからある地方では、物やお金で相手の働きに対して恩を返すのではなく、**ちがった働きによって恩を返すこと**を**「手間返し」**というのだそうです。私は、時々校長室でご相談を受ける方もいます。**それは、私にとって今までの恩返し「手間返し」の大切な機会なのです。当たり前の事です。日頃、会えない方もいると思うので是非、チャンスを逃さず、いつでもできると思わず皆さんも、この「手間返し」を行ってみてください。とてもいい仲間が近くに寄ってきます。**

　突然でしたが先日、卒業生が手土産をもって来校してくれました。その中に同封されていた老舗店の解説の中に**「座右の銘」**というのがあり、その商品紹介に、開発部の方の考え方「座右の銘」が書いてありました。後半は、そのことを紹介します。

　まず**「座右の銘」**の意味を調べると、格言：深い経験を踏まえ、簡潔に表現した戒めの言葉とありました。その開発部の方の座右の銘は**「無理はするもの、でも無茶はしない」**でした。**「無理は、自らの知恵を絞って、自分の意志で未来を拓こうとする、自分から他にはたらきかける能動的な行為。無茶は、自らは、何も考えないで、単に結果を運に任せているだけの受動的（受け身）な行為。仕事をする上で１００%の力を出すのは、当たり前、成長するには、たとえ１%でも無理をして１００%以上の力を出さなければ成長できない。無理と無茶をはき違えてはいけない」**と書かれていました。



　私は、自分自身、根が怠け者なので、ここでは８０%ぐらいでとか、場面、場面で、変化させるというような器用なことは、少し難しさを感じます。手を抜いたら、とことん手を抜きそうな自分がいるので、それが怖いのです。しかし、そんな私でも、**新しい世界を観たいと**

※この「座右の銘」は、校長見聞録で紹介

か新しいことを身に付けたいと、チャレンジするとき、今の自分の１００％以上を出さないとそれは、身に付かないという実感も確かにある経験で理解できます。人には、いろいろな考え方があっていいと思いますが、自分の考え方や心に決めていることがあると、それを基準に生きていけますし、自分らしく生きられることも多くあると思います。**この冬休みは、落ち着いて振り返る大変良い機会でした。そんな新年のはじめに、自分らしい座右の銘を見つけてみるのは、いかがでしょうか。持っていれば、皆さんが困ったとき、立ち止まったとき自分らしさを見失わず、自分の納得のいく生き方ができるようになると思います。皆さんにそんな座右の銘をもって、有意義な３学期と１年間が送れることを期待しています。**

令和５年１月１０日　３学期　始業式辞より

不審者から身を守る！！

最近、不審者の対応について「所沢ほっとメール」や「市教育委員会」などの行政機関からの連絡など様々な不審者のメールや情報が多く届きます。学校は、その情報を吟味し、伝達方法を選んでいきます。主に注意喚起の方法として、直接生徒に連絡する方法と紙面やメール等でご家庭に連絡する方法などが、よくとられる方法です。しかし、何より予防を各自の判断と責任で行うことが、極めて重要になります。「君子危うきに近寄らず」の言葉通り、暗い夜道を一人で歩いたり、危険な個所へ近寄るのは、本当に危険に感じます。十分注意をお願いします。尚、**被害に遭いそうになった時や、その場を緊急回避しなければならない時は、やはり、その時の緊張感から携帯電話というより、防犯ブザーの使用のほうが確実と言えるようです。**大声を出して助けを呼ぶことも指導していますが、なかなか、緊張した場面で声が出ないというケースも研修会などで聞くと少なくないようです。そして、安全が確保され、すぐに動けるようになったら**学校に連絡するより先に「１１０番」通報**です。（警察と確認済み）学校にかかってきて連絡で、犯人の特徴を聞いてから、「１１０番」では、時間差ができてしまい安全確保の為に犯人の発見や確保ができにくくなってしまうからです。それからでも、学校に連絡をもらえると近隣の学校や行政を通じて、広く危険回避の情報を周知することができます。事故に遭わないほうが、いいのですから、くれぐれも予防をしっかりして安全に過ごしてください。

校長見聞録

わたしにも「座右の銘」というか、指針にしている言葉がいくつかある。本文で前記した「論語」の中で孔子が言った「子曰く～」から始まる言葉もその一つである。内容は、中国の春秋時代の荒れた時代において１，２と言われるリーダーの事である。一般的に人は、出会った最初は、愛想もよく礼儀正しいけれど、付き合いが長くなると次第に自分のぼろが出たり、人の粗が見えてきます。しかし安平中という人は、逆で、多くの人と交流し、長く付き合うほど周囲から尊敬の念を抱かれた人格者だったという内容である。その理由は、長い付き合いであっても、人に対する敬意を忘れなかったためである。「敬」とは、人を敬う、軽んじない、という意味合いである。自分の利益の事だけのために人脈を使わない。そう考えれば、相手の立場や状況に配慮した行動がとれる。謙虚になり、人間的な成長もできる。結果的に、自然と付き合えば、長く続き信頼関係をより強固なものにでき、理想のリーダーになれるというのである。私は、新年の志も含め、何度もこのことを肝に銘じ、行動してもうまくいかない。正に「論語読みの論語知らずである。」しかし、教師の端くれとしては、これを目指さずして日々の仕事の意味はない。最後までやり続けたい。